

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標3	ふれあいと活力のあふれるまち
基本施策2	地域とともに歩む魅力ある産業の育成
施策22	観光
基本方針	自然・歴史・文化などの観光資源の活用と、一年を通してまちの魅力を発信する取組みを進め、地域がにぎわう観光の振興を図ります。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	動物公園入園者数	23.7万人 (平成22年度)	22.8万人	22.2万人	22.2万人	23.4万人	22.5万人	30万人
指標2	年間の総入込観光客数	86.6万人 (平成18年度)	78.4万人	-	-	-	-	95万人
指標3	市ホームページ(観光関係)のアクセス数	54,000件 (平成22年度)	47,013件	72,754件	97,020件	54,659件	87,862件	72,000件

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る 重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	方向性	
1	産業振興計画の推進	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	観光資源の発掘	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	各種イベントの充実	49,417,658	99.5%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
4	はむらの魅力発信・知名度向上事業の推進	52,600,048	89.4%	計画どおり完了	○	○	◎	A	
5	観光協会活動への支援	18,168,000	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	

4 施策評価

①施策の評価

市では、はむら花と水のまつり、はむら夏まつり、はむらイルミネーション等の各種イベントや、多摩川、羽村の堰などの自然、歴史景観、レジャー施設としての動物公園などを活用し、観光事業を進めることができた。平成24年4月にスタートした第五次羽村市長期総合計画において、各種のイベント等の来場者数の推移は、指標である動物公園はほぼ横ばいであるが、夏まつりなどのイベント事業においては、年々増加の傾向にある。

また、「羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画」に沿って、羽村市の認知度の向上を図り、未就学児を育てる20代・30代の共働きの世帯の定住人口の増加につなげていくため、羽村市に暮らす魅力を発信する取組として、ブランドの構築や公式PRサイトの公開、ブランドBOOKの制作などに取り組むとともに、羽村市のシティプロモーションの方向性と手法をまとめた「羽村市シティプロモーション基本方針」を策定した。

②今後の方向性(改善への取組み等)

今後も、イベント事業の取組みについては、情報配信に取り組む、市を挙げてシティプロモーションを推進していく。また、新たな観光資源の発掘にも力を入れ、観光のPR方法についても、先進自治体の取組みを研究しながら有効な手法を取り入れていく。

また、市民に羽村市での子育てのしやすさ、暮らしやすさを再認識していただき転出抑制につなげるとともに、市外在住者に羽村市での暮らしの魅力を認知していただき転入促進につなげていくため、「羽村市シティプロモーション基本方針」に沿って市民や事業者等と協働し、羽村市の魅力発信に取り組む、ブランドイメージである「子育てしやすいまち」を浸透させていく。

※指標である総入込観光客数については、西多摩地域広域行政圏協議会で実施する「西多摩地域観光入込客調査」の数値を用いており、この調査は5年に1度実施しているため、次回は平成29年度を予定している。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			産業振興課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	産業振興計画の推進	平成 28 年	その他	自治事務(市独自)	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	22	観光	事業番号 5

2.事業の概要

事業内容	産業振興計画を点検・評価・推進する体制を整備し、計画の進行管理を行うとともに、常にニーズに即した計画の継続的な見直しに努め、産業振興計画の着実な推進を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	地域とともに歩む魅力ある産業の育成
------	-------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	計画の策定 庁内検討委員会 5回	計画の推進 庁内推進委員会(仮称)設置及び運営	同左 庁内推進委員会(仮称)の運営	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	988 H	1人	93 H	1人	93 H	1人	93 H
主事・主任職	0人	0 H	1人	93 H	1人	93 H	1人	93 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	581	0	0	0
人件費(係長職)	4,979	463	463	463
人件費(主任・主事職)	0	317	317	317
総事業費(合計)	5,560	780	780	780
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	5,560	780	780	780
財源内訳(合計)	5,560	780	780	780

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成27年度に策定した羽村市産業振興計画に沿って事業の実施や進行管理を行った。実施結果については、羽村市産業振興計画推進委員会や羽村地域産業振興懇談会へ報告し、進捗状況等の点検・評価等を行った。

羽村市産業振興計画推進委員会(年2回)実施。

羽村地域産業振興懇談会(年2回)実施。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
産業振興計画案をもとに、工業・商業・農業・観光の各産業分野を一元化した産業振興計画を策定した。	計画に定める事業の進捗を管理し、庁内組織とともに、羽村地域産業振興懇談会を有効に活用して、点検、評価、推進する体制を整備することができた。平成28年度における進捗は、概ね計画どおりであった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

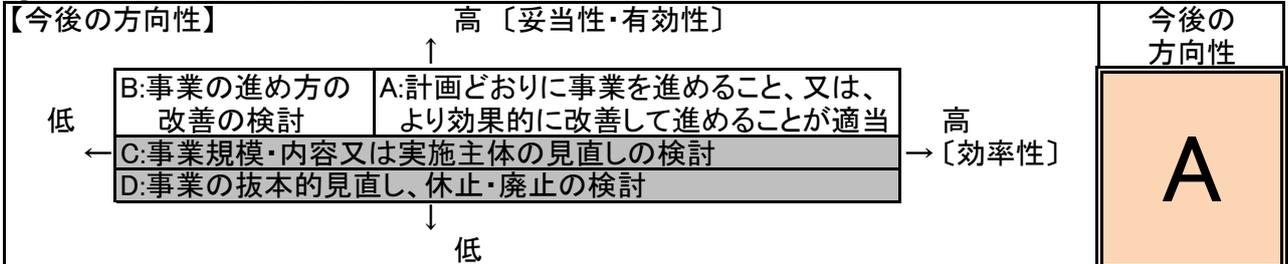
8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

平成28年度においては、計画に沿って事業の実施や進行管理を行う事ができた。引き続き、計画の数値化や、商業や農業等における連携の必要性について、羽村市産業振興振興計画推進委員会、羽村地域産業振興懇談会から意見を聴取し、計画の推進を図っていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			産業振興課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	観光資源の発掘	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
01	観光資源の発掘・研究	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
02	観光資源の活用 動物公園事業の充実	不明 年	継続	自治事務(市独自)	指定管理者	
03	3市(福生市・昭島市・羽村市)観光連携	平成 25 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
04	サイクリングステーションの検討	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
05	羽村観光魅力発信システムの検討	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
関連課						
基本目標 3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	22	観光	事業番号	1

2.事業の概要

事業内容	観光資源の発掘と活用について、観光協会や商工会等と研究を進めます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	観光事業の推進
------	---------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	観光資源の発掘・研究	同左	同左	同左
	観光資源の活用 動物公園事業の充実	同左	同左	同左
	3市(福生市・昭島市・羽村市)観光連携事業	3市(福生市・昭島市・羽村市)観光連携	同左	同左
	モニターツアーの実施 1回 18人 観光パンフレットの作成 (日本語版・英語版)	サイクリングステーションの検討 羽村観光魅力発信システムの検討	サイクリングステーションの整備※事業を検討する中で事業費を算出 羽村観光魅力発信システムの開発※事業を検討する中で事業費を算出	サイクリングステーションの整備

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1 人	120 H	2 人	278 H	2 人	374 H	2 人	362 H
主事・主任職	2 人	120 H	4 人	442 H	4 人	538 H	4 人	526 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	605	2,767	3,722	3,602
人件費(主任・主事職)	864	6,010	7,315	7,152
総事業費(合計)	1,469	8,777	11,037	10,754
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,469	8,777	11,037	10,754
財源内訳(合計)	1,469	8,777	11,037	10,754

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

・3市(福生市・昭島市・羽村市)の観光連携については、5月に都内(浅草)の観光施設を視察し、各市のイベントでは、事業所間の交流を行い、情報収集・情報交換を行った。
 ・サイクリングステーションについては、サイクリストへの聞き取り調査や他市の取組みの情報収集、サイクリングロードの実地踏査及び先進施設の視察等を行い、基本構想の策定に向けた検討を行った。
 ・羽村観光魅力発信システムについては、羽村市産業祭でVR(バーチャルリアリティ)の紹介映像の検討を行った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
今年度は新たなターゲットとして女性を対象としたモニターツアーの開催や、3市観光連携事業として合同の観光パンフレットを作成し、観光客の誘致に努めた。また、モニターツアー参加者がチューリップまつり等、知人を伴い来場するなど観光客の発掘ができた。	浅草の観光施設において名産品のPR方法、例えば実演をするなど、観光資源のPR手法など確認することができた。サイクリングステーションについては、先進市を参考にしながら、農商工観連携施設として機能する「まちの駅」と「サイクリング施設」を複合した施設の位置づけを示すことができた。また、VR(バーチャルリアリティ)の紹介映像や動物公園のPRなど、映像を通して市民の視覚に入りやすい工夫をした。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの
 △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性												
<table border="1"> <tr> <td>低</td> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高		C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討				D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討					A
低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高												
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討														
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討														
	↑	↓													
	低	低													

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 観光資源の発掘については、観光協会や商工会、福生市・昭島市等の関係団体と連携して、今後も継続して実施していく。
 サイクリングステーションの検討については、場所の選定、建設運営に係る民間活力の導入の方向性、特定財源の有無等の検討を行い、よりよい施設となるよう継続して取り組んでいく。
 観光魅力発信システムについては、羽村市産業祭において「産業」をテーマにVR映像の製作を検討しているが、今後は年間を通じた四季折々の観光名所の映像を製作し、市の観光PRを行っていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			産業振興課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	各種イベントの充実	不明	年 継続	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	22	観光	事業番号 3

2.事業の概要

事業内容	夏まつりや産業祭等のイベントについて、事業内容の充実を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	産業振興と地域の活性化への支援
------	-----------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	イベント内容の充実 夏まつり 230,000人 観蓮会 250人 ふるさと祭り 27,000人 産業祭 80,000人 花と水のまつり 170,000人 羽村にぎわい音楽祭等商店会にぎわいイベントの支援 5,000人 はむらイルミネーション 15,000人 その他の各種イベントの支援	同左 夏まつり 観蓮会 ふるさと祭り 産業祭 花と水のまつり 羽村にぎわい音楽祭等商店会にぎわいイベントの支援 はむらイルミネーション 同左	同左 夏まつり 観蓮会 ふるさと祭り 産業祭 花と水のまつり 羽村にぎわい音楽祭等商店会にぎわいイベントの支援 はむらイルミネーション 同左	同左 夏まつり 観蓮会 ふるさと祭り 産業祭 花と水のまつり 羽村にぎわい音楽祭等商店会にぎわいイベントの支援 はむらイルミネーション 同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	939 H	1人	939 H	1人	939 H	1人	939 H
主事・主任職	2人	1,856 H	2人	1,856 H	2人	1,856 H	2人	1,856 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	46,098	48,670	48,670	48,670
人件費(係長職)	4,732	4,672	4,672	4,672
人件費(主任・主事職)	13,356	12,618	12,618	12,618
総事業費(合計)	64,186	65,960	65,960	65,960
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	64,186	65,960	65,960	65,960
財源内訳(合計)	64,186	65,960	65,960	65,960

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	1,172	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の 出来高		円
※ 対象者:				

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

来訪者に楽しんでいただけるような各種イベントを実施し、産業振興と地域経済の活性化への支援を行った。

特に今年の夏まつりでは「夢」をテーマに、多摩ケーブルネットワークの協力を得て、真夏の羽村に雪を降らせるイベントを開催し、来訪者に楽しんでいただいた。

また、産業祭では「夢中」をテーマに野菜グランプリを企画したり、「はむらイルミネーション」ではプロジェクションマッピングを2作品製作し、ビアガーデンの開催等、来訪者に昨年以上の満足を与えられるようなイベントの充実を図った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	48,670,000	1,000,000	49,670,000	49,417,658	99.5%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
夏まつりや産業祭等のイベントを多くの来場者を迎えて実施し、産業振興と地域の活性化を図った。 夏まつり 230,000人、観蓮会 250人、ふるさと祭り 27,000人、産業祭 80,000人、花と水のまつり 170,000人	夏まつりや産業祭等のイベントを多くの来場者を迎えて実施し、産業振興と地域の活性化を図った。夏まつり 230,000人、観蓮会250人、ふるさと祭り23,000人、産業祭 85,000人、花と水のまつり230,000人、にぎわい音楽祭 3,500人、はむらイルミネーション18,000人。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高	A
			低	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
関係機関と連携しながら創意工夫をして、今後も産業振興、地域経済の活性化を図るため、継続して各種イベントの充実に努めていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	企画総務部 部 シティプロモーション推進課			
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	はむらの魅力発信・知名度向上事業の推進	年				
01	専用Webサイトの構築	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○
02	チラシ・ポスターの活用	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	直営	
03	ロケ撮影のコーディネート	平成 24 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
04	はむりんのイベント出演	平成 25 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	
05	他	年				
関連課		企画政策課・産業課				
基本目標	3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	22	観光	事業番号
						6

2.事業の概要

事業内容	ロケーション誘致等のフィルムコミッションや羽村市公式キャラクターはむりんの活用に継続的に取り組むとともに、羽村市の認知度をさらに高める中で、交流人口や定住人口の増加による街の賑わいと活力の創出を目指していくため、羽村市の地域性や特色・個性を生かしたシティプロモーションを立案し展開していきます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	市の認知度の向上と来訪者の増加を生み出すことで定住人口の増加につなげる。
------	--------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	広報指針の策定・推進・事業の実施			
	市の知名度向上のための雑誌への広告掲載2紙・公式サイト等への誘導・チラシ、ポスターの作成	戦略的なシティプロモーション事業の実施 ・専用Webサイトの構築 ・チラシ・ポスターの活用	同左 ・専用Webサイトの推進 ・雑誌広告等掲載	同左 ・専用Webサイトの推進 ・雑誌広告等掲載
	ロケ撮影のコーディネート ロケ撮影成立数20件	同左 ロケ撮影数25件	同左 ロケ撮影数25件	同左 ロケ撮影数30件
	はむりんのイベント出演 80事業 平成27年12月現在	同左 100事業	同左 100事業	同左 100事業
	はむりんを活用したPRグッズの展開 承認件数累計65件 平成27年12月現在	同左 新規承認件数10件	同左 新規承認件数10件	同左 新規承認件数10件
はむりんのうたとダンスの活用	同左	同左	同左	

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	200H	1人	200H	1人	200H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	16,788	8,822	16,219	6,219
人件費(係長職)	0	995	995	995
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	16,788	9,817	17,214	7,214
国庫支出金	10,000	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	3,000	3,000	3,000	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	3,788	6,817	14,214	7,214
財源内訳(合計)	16,788	9,817	17,214	7,214

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円

※対象者:

平成28年度【事後評価】

Do(実行)【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画に沿って、未就学児を育てる20代・30代の共働きの世帯の定住人口の増加につなげていくため、子育てに励む市民が感じている暮らしや子育ての魅力から、ブランドを構築し、市内外へ発信していくためのブランドメッセージとロゴマークの策定に取り組んだ。また、全職員でシティプロモーションを推進していくため、方向性を示した手順書として、「羽村市シティプロモーション基本方針を策定した。」
 このブランドやブランドメッセージ、市民の魅力的な生活スタイル、子育て支援情報等を発信する公式PRサイトの公開と、魅力発信市民記者の事業に取り組むとともに、子育て情報誌「たまごクラブ」「ひよこクラブ」へ全6回のタイアップ記事を掲載し、魅力発信に努めた。
 また、子育て情報誌に掲載した記事を活用して、「羽村市ブランドBOOK」を制作し、ブランド化の推進に活用している。
 その他、はむりんのイベント出演やロケ撮影のコーディネート等を実施した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	8,822,000	50,000,000	58,822,000	52,600,048	89.4%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
市外・市内の住民に対し、羽村市の情報を戦略的に発信していくため、広報活動指針を作成し、既存の広報活動と戦略的に取り組むシティプロモーション活動についてまとめた。 また、公式キャラクターなどを活用した羽村市のPRに取り組むことで、市民の郷土愛の醸成に取り組んだ。	シティプロモーションを推進する全職員の手順書とする羽村市シティプロモーション基本方針を策定した。また、市のブランドや公式PRサイトの構築、魅力発信市民記者の育成、PRツールの作成等、シティプロモーションを推進していくための準備が整った。 その他、公式キャラクター「はむりん」を活用したPRなどにも継続的に取り組んだ。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
ロケ撮影数	25件	39件
はむりんイベント出演数	100事業	111事業
はむりんを活用したPRグッズの承認件数	10件	14件

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部		産業振興課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5	観光協会活動への支援	昭和 53 年	継続	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	22	観光	事業番号	4

2.事業の概要

事業内容	観光協会が行う観光振興事業に対して、補助金を交付するなどの支援を行います。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	観光協会が実施する観光事業への支援
------	-------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	補助金の交付・運営支援	同左	同左	同左
	観光資源PR等の事業支援	同左	同左	同左
	法人化に向けた支援	同左	同左	同左
	観光案内所の開設支援 (3月下旬～5月末開設) 開設日数 67日	同左 (3月下旬～5月末開設) 開設日数 68日	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	11H	1人	93H	1人	93H	1人	93H
主事・主任職	2人	12H	2人	93H	2人	93H	2人	93H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	14,332	16,301	16,301	16,301
人件費(係長職)	56	463	463	463
人件費(主任・主事職)	87	633	633	633
総事業費(合計)	14,475	17,397	17,397	17,397
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	14,475	17,397	17,397	17,397
財源内訳(合計)	14,475	17,397	17,397	17,397

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

観光協会に対して補助金の交付を行い、花と水のまつり、観光案内所の開設業務等の観光振興を図った。また、市等の助成金を活用してレンタサイクル事業を実施した。

観光案内所の開設期間 平成28年3月25日～5月31日(68日)

また、平成29年4月に予定している観光協会の法人化に向けた取り組みに対する支援を行った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	16,301,000	1,867,000	18,168,000	18,168,000	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
観光協会が行う観光事業に対して、補助金の交付と人的支援を行うことによって、観光振興を図った。 特に、花と水のまつりについては、年々認知度が向上し、多くの来場者を迎える中、安全に事業を実施できた。	今年度は観光協会と連携したPR活動の効果で、花と水のまつりは過去最高の人出でにぎわい、地域の活性化に寄与した。観光案内所の来所者は、前年度を1,503人上回る7,068人であった。また、レンタサイクル事業を実施し、観光客の利便性の向上に寄与することができた。 また、法人化については、検討を重ね、平成29年4月に法人格を取得することとなった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性						
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td>C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> <td></td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討				A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当									
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討										
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討										
		低								

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
年間を通じた観光案内、通年開設を望む声が多い中、観光協会が行う観光振興事業に対して、補助金を交付し、市財産を貸与するなどの支援を行っていく。